

写真で、韓国・沖縄の基地問題をアメリカの人々に訴えます ニューヨーク展の成功に向けてご協力ください。

米軍基地と米軍による被害を撮り続けている韓国と沖縄の写真家6人が、ニューヨーク展を開こうと準備を開始しました。ニューヨークで、アメリカの人々に、米軍と米軍基地がアジアで何をしているのか訴えます。コロンビア大学でのシンポジウムも予定しています。アメリカが海外の米軍基地を再編しようとしている今年こそ、この写真展開催は必要です。多くの人々の手でニューヨーク展を成功させましょう。

～沖縄からのメッセージ～ ニューヨークで写真展を！ 石川真生（いし かわま お）

昨年6月に沖縄、7月に大阪と東京、8月に韓国のソウルと4ヶ所の会場で写真展“記録と記憶のトライアングル～韓国・在日・沖縄を撮る10人の眼～”を開催し、大勢の人が観に来てくれました。

韓国の写真家と日本の写真家の合同写真展は、「在韓、在日米軍基地問題」「慰安婦、被爆者、戦後補償問題」という共通のテーマで、韓国と日本の観客に問題提起をすることができたと、私たち参加写真家は自負しています。「いずれは米軍基地問題の写真展をアメリカで開こう。しかも同時多発テロがあったニューヨークでやろう」「アメリカはテロの報復でアフガニスタンとイラクに戦争をふっかけ、多くのアメリカ国民が支持した。これ以上、アメリカの勝手な言い分による犠牲者は出したくない」「米軍基地が置かれている韓国と沖縄で米軍が何をしているのか、地元住民がどう思っているのか、アメリカの国民は知るべきだ」「そのためにテロが起こったニューヨークで、その後の世界を変えたニューヨークの地でぜひとも写真展をやりたい」そんな私たちの願いをニューヨークにある世界的に有名な美術館「P S I (パブリックスクール・ナンバーワン)」がかなえてくれました。



石川真生 “基地を取り巻く人々”

私たち韓国と沖縄の写真家はニューヨークへ乗り込みます。アジアの米軍基地問題をアジア人である私たち自らが写真をたずさえ乗り込みます。そして一人でも多くのアメリカ人と直接話し合うために、「全員でニューヨークに行こう！」を合言葉に意気込んでいます。昨年に引き続き、みなさんの応援をよろしくお願いします。

～韓国からのメッセージ～ 真実をアメリカの人々に！ 安海龍（アン・ヘリョン）

アメリカは本当に朝鮮半島の平和を望んでいるのか？ 悲しいことに私はこの問いに肯定的に「そうだ」と答えることはできない。現在の朝鮮半島の緊迫状況は、極度に硬直したアメリカの傲慢的な態度に一因があると信じているからだ。

「封鎖と孤立」という極端な処方による北朝鮮の武装解除を要求しているアメリカの姿を見ると、むしろ戦争に対する恐れを切実に感じる。自分たちの意志がとらなければ周辺国家や国際機構の仲裁努力も物ともせず、戦争を通じて力で相手を屈伏させようというアメリカの姿を実感しているからだ。また、世界のどの国も抑制できず、統制できない絶対的な軍事力を持つ帝国「アメリカ」に対する恐れである。

3万7千人の米軍が駐屯している朝鮮半島では、米軍は神聖不可侵な聖域だ。飛行機などの訓練騒音で被害を被っても、軍事施設のための供与地のせいで私有財産権が侵害されても、汚水と廃油を無断放流して環境を汚染されても、アメリカは決して侵すことのできない聖域だ。甚だしくは米軍が韓国人に対して侵す犯罪に対しても、主権をもって裁判権を行使することができなかった。韓国の民衆は米軍という絶対的武力に沈黙を強いられてきたのだ。

今こそ、アメリカで米軍が韓国民衆に強要し抑圧してきた沈黙の現場を見せるときだと考える。その現場には黙々と土とともに、そして海とともに暮らしてきた韓国民衆の素朴な姿が息づいている。私たちの写真は、米軍が韓国に強いてきた沈黙の現場が語る真実を、そのままアメリカ人に伝えるであろうと信じる。それがアメリカで写真展を開かなければならない理由なのだ。



アン・ヘリョン

“神聖不可侵地域 - 米軍基地”



イ・ゼガブ
“Another Korean -
韓国のアメラジアン”

ノ・スンテック
“米軍による女子中
生死亡事件”



比嘉豊光
“戦争の傷跡”

イ・ヨンナム
“坡州の米軍基地と住民の闘い”



2004年10月17日~12月中旬 ニューヨーク・PS1美術館にて

写真で、韓国・沖縄の基地問題をアメリカの人々に訴えます！
ニューヨーク展(PS1 企画展)の賛同人になってください。

この写真展は、世界的に有名なPS1の企画展です。PS1の関係者と韓国・沖縄6人の写真家たちが共同で創りあげます。沖縄と韓国の基地問題がPS1でとりあげられるのは初めての事です。私たちは、この写真展を応援します。

昨年は、“記録と記憶のトライアングル~韓国・在日・沖縄を撮る10人の眼~”展に多大なるご協力をくださり、ありがとうございました。企画・運営に携わってくださった皆様、賛同人になってくださった皆様、写真展を観に来てくださった皆様、いろいろな形でのご協力に心より感謝申し上げます。皆様のお力で昨年の写真展が成功したからこそ、今年のNY展が決定しました。

昨年に引き続きのお願いで大変申し訳ありませんが、是非、昨年の合同展同様にNY展が成功にむけて、皆様のお力を再度お貸しくださいようお願いいたします。

PS1の企画展ですので、美術館使用料はいりません。アメリカ国内での広報活動もPS1がします。韓国・日本側の負担は、PS1の話し合いで決めました。それは、写真送料と写真家の渡航費、展示室に配置するガードマン費用の半額(1万円×2人×60日÷2=約60万円)です。これだけで100万円が必要です。シンポジウム費用が別途計上されることと思います。今回は、費用軽減のため、図録作製を断念しました。ですから、賛同人になってくださった皆様にお渡しできるものはありません。ご了承ください。図録の代わりに、NY展が終了後、韓国・沖縄の写真家を招請して、東京、大阪、沖縄で報告会をしたいと考えています。そちらに是非ご参加ください。

賛同人になってくださる方、賛同金を振り込んでください。

賛同金：1口1000円(第一次締め切り9/30)

郵便振り込み 01720-4-105909

「10人の眼展実行委員会」

連絡先

沖 縄：那覇市首里崎山町3-34 喫茶室アルテ崎山店
霜島美也子 (TEL) 098-884-7522 , 090-9076-1488

大 阪：河内長野市清見台4-19-1-304
中條佐和子 (TEL) 080-1404-4324

東 京：豊島区駒込2-14-7 琉球センター・どうたち
島袋陽子 (TEL) 03-5974-1333

PS1について

廃校となった赤煉瓦造りの公立学校PS1(Public School No1)。ニューヨーク近代美術館と提携し、今世界的にも最もホットな展覧会、パフォーマンス、スタジオ・プログラムを発信する現代アート・センターとして注目されている。